Ｈ２０年１２月１９日

さくしん

下氷鉋小学校

（校長室だより　８）

校長　大内　徹

'08 年も残すところわずかとなりました。校舎のまわりの木々もすっかり葉を落とし、外の風も冷たく寒々となってきましたが、よく観ると小枝には新しい小さな芽がついております。春に向けての準備をしているのですね。

登校日数８５日の二学期も締めくくりの時期となり、冬休みを迎えようとしております。先週１７日には５学年の正月飾り（しめ縄）づくりがあり、１５名の地域の方々が講師としておいでになり、しめ縄づくりの手ほどきをして下さいました。子ども達は自分たちが行った米作りのあとの藁を用いてのしめ縄づくりに一生懸命取り組んでいました。あとから、「見て、見て、校長先生、四本も作ったよ」としめ縄を見せにくる子もいました。このように、「見て！」と子どもが言葉を発する時は、何か自分なりの成就感、満足感、喜びを感じている時なのですね。「よく頑張ったねえ。うまいもんだねえ」と褒めてあげると、その子は満足気でした。「見て！」の場面には他にもたくさん出会います。朝教室をまわっていると、２、３年生の子どもたちが、けん玉や独楽回しに夢中になっています。「もしかめ♪」でしょうか、上手にけん玉を操る子どもの顔を見ていると、膝をうまく動かしながらも、実に集中しています。「すごいなあ」と声をかけると、「にっこり」とした笑顔を浮かべてくれます。（私にはできません。悔しいので、けん玉を購入して家で密かに挑戦中です。小林教頭先生はとっても上手です。びっくりしました。）新校舎の東の端にいくと、テラスのあたりで１年生が縄跳びをしています。「何回できるの。やって見せて」と言うと、一生懸命にやってくれます。（でも何回まで数えられるのかな・・？）また、廊下にはそれぞれの学年で描いた絵や作った作品が飾られています。どれを見ても、その子らしさが伝わってきます。一つ一つの絵や作品が「見て！」と語りかけているようです。絵や作品は創られた「物」ではありますが、その一つ一つに子どもたちのアイデア、創造性、魂といったものが込められているのです。そうした作品を各家庭に持ち帰るのではないかと思いますが、それぞれのご家庭では、お子様の作品をしっかり見ていただき、お話していただき、大切に扱っていただけるとうれしいです。多少かさばるようでも、一つ一つの作品を永く保存しておかれるのがよいかと思います。私も家の中を整理をしていて、娘や息子の小学校・中学校の頃の作品が出てくると、「こんな時があったんだなあ」とその作品を通して、子ども達が小さかった頃のことが懐かしく思い出され、私にとっても貴重な宝として感じられるのです。

２７日から１月６日まで、１１日間の冬休みに入りますが、お家の方々がお休みの時には、子どもとたくさん遊んであげたり、コミュニケーションの場をとったりして、お子様の「聞いて！」に対しては親としてしっかり耳を傾け、「見て！」に対しては温かな視線を注いでいただければ幸いです。

１２月のこの時期になると、全国いたる所で「今年の十大ニュース」なるものが流行り出しますが、皆さんのご家庭ではおやりでしょうか。学校職員の中でもやりますが、わが家でも試みております。ニュースの数が１０に満たない場合は５や３になりますが、この一年を振り返るよい機会になります。また、新年になると、「新年の決意」なるものも出てきますが、これもお子様には是非やらせていただきたいことです。新年の決意というと、三日坊主に終わりが

ちな人もいるようですが、実行可能なところを目標にして継続させて自信や成就感を持たせたいものです。継続してやり遂げた自信は、他のことにも転移して波及効果をもたらします。元旦からとなると、三が日が過ぎてお正月の清心な厳かな気分がうすれて、何らかの事情で一日でもできなくなった場合、「くずれて、とぎれてしまったからいいや」という諦めや途中での投げ出しに陥りやすいものです。私の場合は１１月、１２月のうちから次年度の決意になりそうなものに取り組んで自分を慣らしていきます。最初は寝る前にできたかどうかをカレンダーに〇印でつけていきます。一、二ヶ月そのようなことをやっているとカレンダーの数字に〇印をつけることさえ忘れてできるようになるものです。これが定着・習慣化ということでしょうか。禁煙も１０月末（厳密には１０／２９が私の禁煙記念日）に始めて、二ヶ月間続いて自信がついてきたところで、改めて新年の決意としました。タバコをやめて早いものでもう１０年の歳月がたちました。煙で汚染されて薫製のようになっていたハートも（実際はラング：肺でしょうか）だいぶ浄化され、心清らかな人間になったに違いない（？）と自己満足をしております。来る０９年に向けての試みはもうすでに始まっていますが、家族にも内緒です。元旦からスムーズなスタートが切れるようにと今のうちから慣らしているのです。現在やっていないことで、何か新しくやりがいのあることを見つけて、努力を積み重ねていくということは、難しいことですが楽しいものでもあります。有言実行でも、不言実行でも、こどもと一緒に何か始めてみませんか。何かにチャレンジしている限り人間若くいられるような気が致します。せめて気持ちだけでも・・・。完璧主義にならないようにするのが成功の秘訣かもしれません。６０～７０％でもできるようになれば「よし O.K!!」とするくらいの気持ちでスタートすると予想外によい結果が出るものです。教室を回り始める頃、愛組のＴ君によく出会います。Ｔ君は「今からマラソン走ってくるよ！」と私に元気な声で言って走り出ていきます。愛組、勇組、そして操組の皆さんは毎日校庭を走っていますが、「継続は力なり」で、かなりの体力がついていると思います。思いをかけた一つのことを地道に続けることを、愛組、勇組そして操組の皆さんの頑張りに見習っていきたいです。

先日、広徳中学校での小中連絡会に出てきました。中学校では六年生の受け入れの準備がすでに始まっています。中学校に入学すると、国語の漢字練習帳、英語の練習ノート、数学の（ドリル）ノート、そして生活記録（日記）の提出が求められるそうです。これらを提出物四点セットと呼んでいるらしいですが、これがきちんとできない生徒は部活動が始まるとアップアップするそうです。私も長いこと中学校の担任をやってきましたが、そのとおりかと思います。中学校に入学してからの生活に備えて、ぜひ今のうちから家庭学習の習慣を少しでも身につけておいてほしいということでした。中学校に入ると、新しく教科に英語も入ってきますが、心配はいりません。教科担任が一からしっかり教えてくれるはずです。このことは新しい学習指導要領が施行される２３年度についても言えることです。小学校での「外国語活動」を前提に、「これくらいのことは小学校で習ってきているはずだから」というスタンスで中学校での英語教育が始まることはありません。小学校で学び身につけるべきこととして、基礎学力は言うまでもなく、「あいさつをする」「友達と仲良くする」「提出物をきちんと出す」「忘れ物をしない」「落ち着いて学習に取り組む」「しっかり掃除する」ことを身につけて卒業させたいと願っております。よい習慣形成は必ずよい結果を生みます。

３学期（登校日数にして４８日）はあっという間に終わってしまいます。６年生に限らず、５年生から１年生まで、それぞれの学年の子どもたちには、あとわずかで卒業（進級）することを意識・自覚させ、そのための生活面での改善、締めくくりをさせていくつもりでいます。

１２月の懇談会で担任とお話され、お子様の学校での様子や成長点、課題等について確認できたかと思います。それを受けて、お子様ともしっかり話をして、新たな気持ちで新学期を迎えさせてほしいと願っています。冬休み中、病気やけが、そして心と体の事故のないように留意していただきながら、新年を迎えることができれば幸いです。